

陸前高田市議会会派

新星会

発行

陸前高田市議会会派

「新星会」

発行日

平成19年3月27日

第4号



地元で栽培された有機米をを使ってお酒造りをしている大木大吉商店さんを訪問：福島県矢吹町

任期最終議会を 終えて

平成十九年第一回定例会が終了しました。私たちの市議会議員としての任期も一区切りとなりました。

今期定例会は、中里市長の再選後をはじめての定例会であり、市民の新たな付託を受けた市長と、今後四年間の市政の方向を議論しあう大切な議会となりました。新星会からは、福田利喜幹事長が一般質問の最初に登壇し、市政運営と市長選でも公約として掲げられた雇用の創出について中里市長と議論を戦わせたところです。

任期最終の議会となり、今までの四年間を自分たちなりに振り返ると様々なことがあった激動の四年間だったとそれぞれに感じたところです。市民生活の向上に、議会の活性化にと力不足ながら議会活動をした四年間でありました。改めて市民の皆さんに御礼申し上げます。

活かした が急務



佐藤 信一議員

松野 三月定例会ご苦勞様でした。一般質問に登壇していただいた福田利喜議員には、あわせて予算等特別委員長として特別委員会の進行と大変ご苦勞様でした。

さて、三月議会を振り返って皆さんから感想をお聞きしたいと思います。

佐藤 では私から話させていただきます。私は、市政に対し、市民生活の安定向上を図ることを第一の基本として活動することを理念として共有する、この新星会で活動を共にしてきました。特に、中里市長による市政運営下での議会活動の中で、理念に基づき是非々の立場をもって議会活動に参画してきたつ

もりです。一年生議員として、諸先輩に指導を受けながらの議会活動でしたが、自分の持分である農業の振興を中心に、当局とそして中里市長と提言を交えた議論をしてきたつもりです。今期定例会でも、農業分野を中心に市政の発展につながる施策の展開を求めたところです。

しかし、市長選挙の時期から当初予算は骨格予算となり、新規事業も三件だけとさびしい予算案でした。反省点は、骨格予算であつても新市長の今後の方針についてももう少し議論の深まりができたかなと思つてるところです。

西條 そうですね、当初予算のほかに大風による市の施設が原因となつた損害賠償など様々な議案が出されましたが、前向きな市政運営に向けた取り組みがあまり感じられない内容だったように思つています。市長の改選期と重なつたことからの新年度予算は骨格予算でしたが、もう少し前向きな提案があつてもと感じたところです。二月四



多くの来場者で賑う広田半島大漁祭り

日の投票から一月足らずでの議会とはいえ、現職市長の続投となつた今期は、具体的な内容を盛り込んだ提案があつて然るべきと感じています。六月議会での肉付けと考えますが、四年間の任期しかないのです、方向性をキチンと示すべきだったと感じたところです。

福田 私は、今期定例会は予算等特別委員長を仰せ付かったもので、委員会での具体的な議論には参加することができず少し残念でした。

ただ、一般質問をさせていだき、先ほど佐藤信一議員が話された、会派の基本理念である

地域の資源を 地域づくり

市民生活の安定向上を目指すという立場から、市民サービスの維持拡大と財政の健全化へ向けた取り組みなどについて議論をさせていただきましたが、市政全般からの議論をしているのに個々の目の前の施策しか答弁されなかったことや、公約実現に向けた取り組み方について、四年後の完成へ向けてマスターズケジュールを立て、中間地点での到達目標を定めるなどして進めるべきではないかと、今までの役所方式である積み上げ方式の目標達成ではなく、目標達成のためにはいつまでに何をしなければならぬかというような民間発想を取り入れた手法を提案し質したのに対し、四年後に



福田 利喜議員

成果として現れたものに対し市民の審判があるとの答弁に疑問を感じ再質問もさせていただきましたが、もう少し議論を深めたいと感じたところです。

小松 皆さんには本当にご苦勞様でした。私は議長という立場から議会での議論には参加できませんでしたが、新星会の伝統である会派員全員が共通の理念と理解をもって議会活動をするものことから続けられている一般質問検討会や議案書、予算書を一ページづつ勉強し、議案や市政課題を共有する勉強会が議員任期最終となった今期定例会まで続いたことに感謝申し上げます。

また、今期定例会は人事案件や議員の辞職の許可など様々な案件があり、その処理に当たっては西條議会運営委員長を中心にキチンとした対応をしていたことに対しても感謝申し上げます。三月議会を、特に予算等特別委員会を後ろから拝見いたしておりましたが、もう少し活発な議論があっても良かったのでは

たのではないかと感じていたところでは

松野 ありがとうございます。私は、積極的な形での議論には加わることができませんでしたが皆さんの議論を頼もしく感じていたところです。

次に、陸前高田市はどのように進んでいくべきかを議論したいと思います。今度は、西條さんいかがでしょうか。

西條 私は、今回の市長選で最大の争点となるべきものは広域合併だと思っております。しかし、合併は避けて通れないものだと感じています。今後は、市民生活の向上を目指して、合併のメリット、デメリットを示し市民が判断できる材料をより多く示



西條 廣議員



小松 眞議員

し、今後の陸前高田市の方向を市民が判断できる機会を設けることが必要だと考えています。それには、私たち議員も積極的に情報発信をすることが必要と痛感しています。是非、前向きな陸前高田を作るための議論の場を市民の皆さんと持つことが急務と考えています。

福田 西條さんのより多くの市民の皆さんと意見の交換をする機会を多く持つことには賛成です。今、陸前高田市をはじめとする多くの地方自治体は大きな転換期を迎えていると感じています。国や県からの財源確保が難しくなった現在、水の無くなった井戸にいくらパイプを繋いでも水は流れてこない。これ



多くの若い人たちが働く場を求めている

からは、知恵を活かした工夫を実現する方法を提案し具体化に向けた動きをすることが必要になって来ていると感じています。岩手県が進めている県北・沿岸振興策も県が主体的に何かをするのではなく、市町村や民間が、特に民間などが創意工夫をするものに様々な後押しをすることが主体となっています。私たち議員は、市民の知恵を実現させひいては地域の活性化に結びつける橋渡し役になることが必要だと感じています。陸前高田市が目指すべきは、市民の



松野 榮雄議員

様々な知恵やネットワークを大きくするような施策の展開が必要だと考えます。

佐藤 私も、その考え方に賛成です。地域の様々な資源や人材を活かすような市政運営の展開が必要だと感じています。新星会の会派研修で訪問した福島県矢吹町の中畑有機農産さんの取り組みなどまさに手本とすべきと感じてきました。先進的な事例を紹介するだけでなく、先進地に追いつき追い越すためには個々がそして行政が何を成すべきかをキチンと把握して施策に反映させることが必要と考えます。農業分野では、質問でも話しましたが総合営農指導センターの活用充実を図ることがもつ

とも大切かつ有効だと考えています。

松野 小松議長いかがでしょう。会派のメンバーそれぞれが自分の得意な領域を持つており、それに即した提言をされましたが。

小松 私は、当局と議会が車の両輪であると考えています。現行の地方自治法における首長と議会は、二元代表性を採っておりそれぞれが別個に独立そして相互に干渉する立場にあります。そのような立場にあることからこれまでの議会は主にチェック機能としての機能が全面に出ていましたが、これからは法律も改正され、議会の委員会が条例等の提案権を持つことになりましたので、政策提案機能としての機能も有することになり議会の役割が大きくなります。これを機に、議員が当局に負けないような議会になることが陸前高田市の発展につながると感じています。

松野 皆さん、ありがとうございました。

議会報告

前号以降の定例会で行った
一般質問をお知らせします。



佐藤信一議員

平成 18 年 9 月議会

1 第一産業の施策について

- (1) いもち病、カメムシ被害等、稲作に関わる病虫害防除対策にどう取り組んでいくのか。
- (2) シカ、カモシカ、熊等の鳥獣類による農作物被害対策をどのように進めていくのか。

2 地域資源利活用の施策について

- (1) バイオマスエネルギーを利用した林業振興をどう進めていくのか。
- (2) 気仙川観光を進める上で、鮎漁や川の駅の取り組みをどう進めていくのか。
- (3) いそ焼け対策としてのアラメ増殖による海中林の再生への取組みに対し、どのように関わっていくのか。

3 市の活性化施策について

- (1) 団塊の世代を含めた交流人口、定住人口の増加を踏まえた取組が必要と思うがどうか。
- (2) N P O 法人を主体とした市民参加による地域活性化への取組に対し、どのように対応していくのか。



西條 廣議員

平成 18 年 9 月議会

1 自治体合併について

- (1) 気仙地域広域行政等研究会が設立されて協議が行われているようだが、その内容はどうか。
- (2) 自治体合併は市民が決めるものと思うが、市民の意思確認のためアンケートを取るべき時が来ていると思うがどうか。

2 第一産業の振興について

- (1) 市内の経済は、第一次産業で支えられている部分が多いと思うが、後継者不足で今後の継続が危惧されている。その対策はどうか。
- (2) 市内水産業の形態は養殖に係る事業の割合が多いが、加工・流通・販売分野の促進が必要と思うがどうか。
- (3) 環境保全のために第一産業の大規模産業廃棄物処理施設の設置を企画してはどうか。

3 保育園の統合と福祉施策について

- (1) 法人立保育園の統合に取り組んでいるようであるが、その現状と見通しはどうか。
- (2) 統合後の県立広田水産高等学校の跡地有効利用を多目的な福祉総合施設として利用できるように、岩手県に働き掛けてはどうか。



福田利喜議員

1 陸前高田市総合計画後期基本計画について

- (1) 総合計画後期基本計画の策定指針では、重点施策の推進を図る計画作りとして、各分野において、「何が重点課題かをより明確にし、課題解決に取り組む計画づくりを進める。」と明記されていたが、各分野だけではなく、本市では「当面自立をめざす」としており、課題の分析をもう一步進め、より具体的な課題解決に向けた施策の推進を計画として盛り込むことが、具現性が高まる計画になったと思うがどうか。
- (2) 計画書には、前期計画における主要施策の成果が掲載されているが、この成果を次につなげる施策についてはどのような形で計画に反映させ、継続しようとしているのか。特に、有機性廃棄物のリサイクル実証事件などその成果について強調されている施策については、後期計画においてどのような考え方をされているのか。
- (3) 防災計画の見直しもされているようだが、基本計画にも部門別計画の中に「安心で暮らせる暮らし」として様々な計画が盛り込まれているが、近年高い確率で発生が予測されている宮城県沖地震に対する施策について緊急性と市民生活への影響が高いことから、様々な計画の基となる総合計画に具体的な施策を表記すべきと思うがどうか。

2 行財政改革プログラムについて

平成 18 年 6 月議会

- (1) 行財政改革プログラムの目的は何か。また、市民生活の向上という行政の目的からすこし方向が異なっている内容になってはいないか。誰のための行財政改革であるかを今一度考え、コンセンサスを得る必要があるのではないか。
- (2) 19年度以降の地方交付税については、見通しが見つからない現状ではあると思うが、歳入のあり方について現状のままの財政構造を維持するだけではなく、歳入確保につながるような施策が根本的に必要と思う。このような施策を実行するための財源の捻出といったような、市民や市職員のモチベーションが高まるような施策を表記する必要もあると思うがどうか。
- (3) 行財政改革プログラムを推進する上で、具体的な手法の一つとして「事務事業評価」を行っており、大変有効な手法の一つであると評価するが、「事務事業評価」自体が目的となっていないか。また、事務事業評価にかかる事務量と成果について検証することも必要と考えるがどうか。

1 指定管理者制度の運用について

- (1) 先の定例会で条例制定され来年度導入予定施設の指定管理者選定状況はどうか。
- (2) 指定管理者制度の趣旨は、「公の施設のより効果的、効率的な管理を行うため、その管理に民間の能力を活用するとともに、住民サービスの向上や経費の削減を図ることを目的とする。」とされているが、本市が指定管理者制度に求めているものは何か。
- (3) 今後、指定管理者制度の導入が計画及び予測される施設はどの程度か。

平成 18 年 12 月議会

2 市税の課税について

- (1) 固定資産税の税率が、標準税率を超えた適用を行っているが、県内他市と比べると高い税率の適用となっているが、その考え方の趣旨はどこにあるのか。また、今後見直しを検討することはないか。
- (2) 目的税として定義されている都市計画税であるが、県内の都市を見渡してみると課税を行っているのは、盛岡市と本市だけであるが、本市が今もって都市計画税を課税している趣旨はどこにあるのか。また、この税の適用について今後検討する予定はないか。

- (3) 国保税額算定における、固定資産税割の考え方についてはどのように考えているのか。所得を得るための手段として用いてはいない居住用財産にまで国保税の算定基礎とすることは妥当と考えているか。また、国保税の課税体系について検討する予定はないか。

平成 18 年 12 月議会

3 一次産業の振興について

- (1) 認定農業者制度の内容からすると、本市の農業は厳しい状況にあると推測されるが、生産から販売、流通までを検討し、本市の農家規模でも産業として成り立つことが出来る体制を構築する必要があると思うがどうか。
- (2) 転作面積の拡大などにより、遊休農地が拡大しているが、環境に配慮した利用として全国で菜の花プロジェクトが進められている。本市でも、菜の花栽培から BDF 燃料まで一貫した活用が出来るこのプロジェクトを推進する考えはないか。

1 市政運営について

- (1) 公約として取り上げたまちづくりの実践について具体的な方策はどのように考えているのか。また、マスタースケジュールを早い段階で示すべきと考えるがどうか。
- (2) 市民サービスの充実と財政再建という両極にあるものを同時に実行していかなければならないが、財源の確保策はどのように考えているのか。

平成 19 年 3 月議会

2 雇用確保の具体的方策について

- (1) 第一次産業を中心とした産業の振興を図ることを公約されたが、生活していける産業にするための具体的取組をどのように考えているのか。
- (2) 県の県北・沿岸振興対策と連動し、食に関する産業の振興を図ると共に雇用の場の創出を掲げているが、市として具体的な提案を持って県と連動する必要がある。現在考えている方策は何か。

1 相川、滝の里地内の道路改良について



松野榮雄議員

- (1) 朝夕の通勤通学時、滝の里工業団地付近の道路は混雑しており、有事の際、国道までの退出ができないことも想定される。通勤通学及び有事の際、物流的にも迂回路が必要と思う。滝の里町内会の会館前までは赤線であるが、滝の里工業団地道路を改良する考えはどうか。
- (2) 相川、滝の里地区には誘致企業、自動車学校、ディサービスセンターがあり、また、子どもたちの通学路や自動車学校の教習コースにもなっている。滝の里地内の道路は通勤通学者にとって狭隘なところが多く、さらに急カーブや橋等があり、冬期間は特に危険であることから、早期に道路の改良整備を行うべきと思うがどうか。

平成 18 年 6 月議会

2 農業担い手支援対策について

- (1) 国の担い手支援が大規模化の方向で本決まりとなった。岩手担い手支援総合対策との整合性はどのようにすすめていく考えか。
- (2) 農業振興対策室を市農協営農部内に設置したが、本市の中核農家の担い手支援対策をどのように進めていこうとしているのか。

十八年度研修 トマトの契約栽培を 学ぶ

福島県矢吹町 中畑有機農産

新星会の研究研修事業の一環として本年度は一次産業の振興をテーマとして研究を行ってきました。本市一次産業は、農業、林業、水産業と地勢を活かしそれぞれの部門で様々な取り組みがなされています。総生産高、携わる人数からすると農業が秀でており、一戸当りの生産額では漁業が群を抜いています。

一次産業の各分野をくまなく網羅することは短い時間では困難なことから、市の施策で重点項目として奨励・補助を行っているトマトを中心とした農家経営について十八年度の研究課題と設定し、様々な活動を行ってきました。市では、カゴメ向けの「こくみ」トマトの契約栽培を奨励し、トマトの苗の購入に対し補助を行ったところです。二年目となった十八年度は、栽培する農家戸数と面積も増え順調に推移するかと思われていましたが、天候をはじめ様々な要因から思ったような収穫量と品質を確保できず、少し残念な結果になりましたが、今後とも産業として成り立つ農家経営に向け寄与できる作物と期待できるものです。

新星会では、トマトを中心とした計画

栽培で、一農家あたり年収二千万円を越す収量を上げている福島県矢吹町にある中畑有機農産さんを視察してきました。十月も末にお邪魔したのですが、出荷の末期とはいえ赤く色づいたトマトが箱に入れられ出荷を待っていました。お話を伺った代表の高久さんからは、こんな時期に視察に来るのはめずらしい、みんなは夏の最盛期に来るものだといわれましたが、本当の意味でのトマト栽培の真髄を見ることができるとこの季節であるといわれ、視察の期待が三倍にも膨れ上がりました。

高久さんを中心とする中畑有機農産は、生産者が五十名ほどでトマト部会、ほうれん草部会、ねぎ部会などからなり中心には出荷に対し責任を持つ有限会社中畑有機農産を組織している企業としての部門と、生産現場の部門がひとつになって活動されている組織となっています。



出荷を待つトマト

した。発足から二十年ほどだそうですが、ここまでの道のりは決して楽なものではなく、コンサルタントを信用した結果、数千万円の借金を高久さん個人が背負った時代もあったそうです。

また、農家の意識改革にも時間がかかったと話されていました。契約先とは、年間を通し価格帯と出荷数量を約束しているのに、市場価格が高いときには、ほとんどを市場に出荷しなかなか品物が集まらない。逆に、市場価格が安いときには、品物が大量に納められるなど、契約栽培のいろはから農家に契約栽培とは何かを覚えてもらったといっていました。生産したものをただ市場に相手の価格で売るのはなく、きちんとした数量を決められた価格帯で出荷するシステムの確立が、契約栽培を成功させるための最低限のルールだということを生産者が理解し納得することから企業経営としての農業が始まると感じさせられたところで、品質の維持は当然のことであり、いうまでもありません。

もうひとつ、なぜ中畑有機農産の生産物が引っぱりだこのかの理由が、農地の土壌検査にあるとのことでした。有機農産物と銘を打っていることから、契約先に対し安全で安心であることを証明する必要があることから、他の産地以上に土壌分析を行い、契約先に毎月提示



高久さんのトマトハウス

しているその姿勢が他の産地との違いになり、お客様の信頼を得ていると感じてきました。農業改良普及センターなどでも無料で検査してくれますが、中畑有機農産では圃場ひとつひとつを全て月一回検査をし、その検査項目も普及センター等で一般的に行う項目より多く、さらには微量ミネラルまで検査し契約販売先に提示していることが、高い価格で安定した出荷ができるための秘策であるとのことでした。

他の産地とは違うことを、手間と経費はかかりますが行うことにより信頼を勝ち取ることにつながり、手間と経費以上のものを得ることができると感じた研修となりました。本市においても学ぶべき点が多いと感じてきた次第です。私たちの役割は、私たち議員が勉強するだけでなく、その情報を市民の皆様に分け、その研修することの意義と考えておりますことから、今後も情報発信に努めてまいります。